

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

本資料は、文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。
下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

- ◆ここに示されているものは、あくまで例であり、これ以外は「合理的配慮」として提供する必要がないということではありません。
- ◆複数の障がいを併せ有する場合には、各障がい種別に例示している「合理的配慮」を柔軟に組み合わせ検討しましょう。
- ◆記載していない項目についても、「合理的配慮」として提供する必要がないというものではありません。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて検討しましょう。

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと） 注意欠陥多動性障がい

※文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

◎行動を最後までやり遂げることが困難な場合には、途中で忘れないように工夫したり、別の方法で補ったりするための指導を行う。

- ・自分を客観視させるための指導を行う。
- ・物品の管理がでやすくなるような工夫をするための指導を行う。
- ・ソーシャルスキルカードを用いて、トラブルや失敗があったとき、どうしたらうまくいくかを話し合う。
- ・気持ちがそれたときは注意を向けさせるような言葉掛けをする。 等

①-1-2 学習内容の変更・調整

◎注意の集中を持続することが苦手であることを考慮した学習内容の変更・調整を行う。

- ・学習内容を分割して適切な量にする。
- ・視覚支援を取り入れ、「見てすぐに分かる」配慮をする。
- ・全体での指導の後に個別で大切なポイントを伝える。 等

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

◎聞き逃しや見逃し、書類の紛失等が多い場合には伝達する情報を整理して提供する。

- ・掲示物の整理整頓・精選をする。
- ・目を合わせて指示をする。
- ・メモ等の視覚情報を活用するための指導を行う。
- ・静かで集中できる環境作りをする。
- ・フラッシュカードなど視覚的に課題に取り組める教材を活用する。
- ・ホワイトボードやタブレット端末を活用し課題やヒントを分かりやすく示す。 等

①-2-2 学習機会や体験の確保

◎好きなものと関連付けるなど興味・関心が持てるように学習活動の導入を工夫し、危険防止策を講じた上で本人が直接参加できる体験学習を通じた指導を行う。

- ・得意な学習で活躍できる場を設ける。
- ・場に合ったコミュニケーションの態度を身に付けられるようソーシャルスキルトレーニングを行う。 等

①-2-3 心理面・健康面の配慮

◎活動に持続的に取り組むことが難しく、また不注意による紛失等の失敗や衝動的な行動が多いので、成功体験を増やし、友達から認められる機会の増加に努める。

- ・十分な活動のための時間を確保する。
- ・感情のコントロール方法を指導する。
- ・よい面を認め合えるような受容的な学級の雰囲気作りをする。
- ・心情を察した言葉掛けをする。等
- ・物品管理のための棚等を準備する。
- ・困った時に相談できる人や場所を確保する。

②-1 専門性のある指導体制の整備

◎特別支援学校や発達障がい者支援センター、教育相談担当部署等の外部専門家からの助言等を生かし、指導の充実を図る。また、通級による指導等学校内の資源の有効活用を図る。

- ・巡回相談や専門家チームを活用する。
- ・定期的にケース会議を持ち、情報共有するとともに必要な合理的配慮について検討を重ねる。等

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

◎不適切と受け止められやすい行動についても、本人なりの理由があることや、生まれつきの特性によること、危険な行動等の安全な制止、防止の方策等について、周囲の幼児児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

- ・関係する教職員が集まって情報交換会を行う。
- ・関係者が集まって支援会議を行う。
- ・教職員や保護者向けの書籍・教材を購入・貸出しをする。等
- ・保護者対象の研修会を行う。

②-3 災害時等の支援体制の整備

◎落ち着きを失ったり、指示の途中で動いたりする傾向を踏まえた、避難訓練に取り組む。

- ・項目を絞った短時間での避難指示をする。
- ・行動を過度に規制しない範囲で見守りやパニックの予防をする。等

③-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

◎注意集中が難しいことや衝動的に行動してしまうこと、落ち着きを取り戻す場所が必要なことを考慮した施設・設備を整備する。

- ・余分な物を覆うカーテンを設置する。
- ・危険な場所等の危険防止柵を設置する。
- ・空き教室を個別指導やクールダウンができる場として位置付ける。等
- ・照明器具等の防護対策をする。
- ・静かな小部屋を設置する。

③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

◎災害等発生後、避難場所において落ち着きを取り戻す場所が必要なことを考慮した静かな小空間等を確保する。